

## *Campylobacter* 属菌の迅速検査法の検討について

保健科学課 高橋 直人・古賀 舞香・松永 典久・丸山 浩幸  
早良区保健福祉センター衛生課 徳島 智子

平成 28 年度食品衛生研究発表会

カンピロバクター属菌による食中毒発生病数は依然として多く、福岡市内で発生する細菌性食中毒の大半を占めていることから、本食中毒において正確かつ迅速な検査が求められている。従来は、増菌培地で培養後選択分離培養を行い、コンベンショナル PCR(以下 cPCR)と生化学性状試験で菌株を同定していたが、cPCR 法では保健所の検体持込みから成績書発行までに時間を要してしまうだけでなく、電気泳動を行って目視判定を行う際に、バンドが不明瞭であったり非特異的なバンドが生じる問題が散見される。そこで、迅速で特異性の高いカンピロバクター属菌検出方法として、定性マルチプレックスリアルタイム PCR 法(以下リアルタイム PCR)の開発を行った。

今回用いたリアルタイム PCR では、偽陽性や偽陰性も見られず十分な特異性があると考えられることから、培養法で分離したカンピロバクター属菌の迅速な鑑別同定に有用であると考えられた。現在このリアルタイム PCR を食中毒発生時のカンピロバクター属菌の同定に使用しており、cPCR に比べ 4 時間以上時間を短縮できるようになった。